

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000252		
法人名	有限会社 ももえん		
事業所名	グループホーム ももえん		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字小々森1260番地1		
自己評価作成日	平成 30年 12月 25日	評価結果市町村受理日	平成31年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 31年 1月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム南側には田畑が広がり、そこから見える景色から季節を感じる事ができる。小規模多機能ホームと併設しており、一緒に行事をしたり声を掛け合ったりと交流もある。職員は支援していくなかで理念を念頭に置きながら、利用者様1人1人に応じた丁寧な介護ができるように常に取り組み努力している。利用者様が重度化し続けるなかで、穏やかに過ごしてもらえる様に取り組み、医師・薬剤師・歯科医・訪問看護・訪問マッサージ等他職種との連携も大切にしながらか支援している。又御家族様との関わりもしっかりできるように努めており、毎月個別でのお便りを出したり、家族会や運営推進会議で意見交換を行い信頼関係作りにも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から14年が経過する事業所は、常に入居者の尊厳を念頭に「笑顔でその人らしく、持っている力をフル活用、自由に自ら生きていく」という理念のもと、全職員がぬくもりある家庭的な雰囲気づくりの支援に努めている。平野に囲まれた事業所は、木造平屋建てで窓が多く、光が差し込んでくるため、明るく、静かで過ごしやすい。リビングからは田畑が見え、季節の移り変わりを感じることができる。地域や家族とのつながりを大切に、地域行事への参加や事業所での行事の開催、家族会、運営推進会議、地域の方を含めた避難訓練等を実施することで関係性が深まっている。専門職との連携や職員の質の向上のための研修等、常にスキルアップを目指し取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に理念が把握出来るように目につきやすい場所にあげ、意識付けを行って実践しやすいようにしている。	理念は誰もが目につきやすいよう、玄関に提示している。新人職員のオリエンテーションでも理念の説明を行い、支援に対しての意識づけが行われている。今後、新たな理念づくりについても検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや地域の他施設の行事に参加したり、施設での行事活動に参加して頂けるように地域の方々へ呼びかけ、コミュニケーションが取れるように努めている。	地域のスポーツ大会や文化祭、イベント等に参加することで地域の方とのコミュニケーションが図れている。事業所主催のもちつき会等は、地域の方にも来てもらい、一緒に活動することで地域との交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方・利用申し込み者・見学の方から相談を受けアドバイス等を行い、一人一人のニーズに合った紹介ができるように努めている。又機会があれば認知症の講座もして理解してもらええる様に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回開催し利用・活動状況・サービス提供の報告をし、又意見交換等行っている。でた意見には全職員で話し合い、より良いサービスが提供出来るように努めている。	運営推進会議は月に2回実施されており、管理者より、事業所の日々の活動内容の報告や専門職による講座、地域からの情報提供など、活発な意見交換が行われている。管理者は議事録を記載し、玄関に提示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川副ネットワークの1員として、行政との連携を取っている。包括支援センターへ相談やサービス提供の報告を行い、問題や課題の助言や指導を受けている。	定期的に報告をしたり、情報提供を行い、連携を図るようにしている。地域包括支援センター主催のアドバイザー事業では、積極的に事例を挙げ検討し、助言や指示を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容を理解出来るよう施設内での勉強会や外部講師などの研修に参加してもらい、理解を深め身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間以外行っていない。	身体拘束は行われていない。虐待専門の外部講師を招き、職員全体で勉強会を行っている。虐待防止マニュアルを職員全員で確認し、意識づけしながら日々の支援が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止の重要性が理解出来るよう勉強会や研修会に参加し、虐待があってはならないとの意識を強め日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会や研修会に参加し、知識習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には納得ができるように十分な説明をすることを心掛けている。又、施設内も見学していただいた上で希望された方は契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族の面会時には常に意見や要望がないかを尋ねている。頂いた意見や要望は全職員で話し合い反映させるように取り組んでいる。又改善策等の報告は運営推進会議で行っている。	面会時に意見や要望がないか確認している。家族会の時は食事会を設けており、話しやすい環境作りができています。また、出された意見については、職員間で話し合い、反映することができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や毎月の勉強会・ミーティング等で意見交換を行い、業務に反映できるように努めている。	定例の会議や日常の業務の中で気兼ねなく話ができる環境である。職員の意見を聞く時は、一人ひとりに意見を求め、可能な限り、意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会や研修会に参加し知識の向上を図ってもらったり、職員に役職を付け給料水準を上げ、職員の努力が形にできるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員による勉強会を月に1回行ったり、外部からの講習会等も定期的に行い知識の習得ができるように努めている。又、業務中も必要なときは技術面の指導もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川副ネットワークや職場外での勉強会などに参加し、意見交換を行っている。又、合同で行事等行いお互いの支援の仕方など見ることによって、知識の向上にも繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話や表情等もよく観察し、声かけを多くし安心して話してもらえ、利用者様の思いをしっかりと受け止めることができるように信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込時や面会時に要望を聞き、不安を和らげるように努めている。又職員間で御家族の困っている事等を把握し、職員全体で不安解消できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様のそれぞれの状況を踏まえ、現段階で必要なサービス又は情報を提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩として尊敬しながら、暮らしを共にする者どうしの関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様、利用者様の思いを大切にし、職員・家族・利用者様が同じ思いで支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様や家族様にこれまでの生活歴や習慣を尋ね、利用者様の好まれる話やこれまでの生活を考慮し生活が送れるように努めている。	入居時に本人や家族から生育歴を聞き取り、馴染みの場所を外出先に設定し、実施している。知人や友人の面会があった時には写真を撮り、毎月の便りに載せたりし、人や場所との継続を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様1人1人を尊重し、普段の生活から利用者同士が会話したり、関わり合う場を設け、お互いが支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談してもらえるように声掛け、相談時には丁寧に対応し、これまで同様の支援が行えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様・家族様の思いを生活歴を聞いたり、日頃の会話から把握し、1人1人を尊重しその人らしい生活が送れるよう努めている。	入居時に本人や家族から意向の聞き取りを行っている。思いが聞き取れない入居者については、行動や表情から発するもので探し出し、職員間で情報を共有して支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前・入所後も生活歴やなじみの環境を情報収集し、生活環境が変わらないように努めている。又情報は全職員で共有止、ケアの統一に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の言葉・仕草・動き等を観察し、記録や申し送りをし全職員が把握してケアできるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員が中心に状態を把握し、利用者様や家族様・主治医・訪問看護師等の意見を取り入れ計画を作成していく。又状態変化が合った時はその都度話し合い見直していく。	本人、家族の意向を確認し、医師等、専門職からの助言も取り入れ、きめ細かく、具体的なプラン作成ができています。入居者の状況によって柔軟にプラン変更も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録を利用者様ごと個別に行い全職員が情報を共有し、より良い計画作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気を活かしながら利用者様・家族様の意見要望を傾聴し、柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際は地域のボランティアに参加して貰ったり、地域の消防署や警察署に協力して頂き安心した生活ができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様の希望にそったそれぞれのかかりつけ医にみて頂いてもらっている。重度になっていくと定期的に往診してもらおうようにし、24時間対応可能な体制をとってもらっている。	入居者、家族が希望する病院での受診を支援している。家族の付き添いが難しい場合は、職員が受診の支援や往診での対応も行っている。また、緊急時など24時間、医療機関との連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護師に週に1回訪問して貰い日々の状態を報告・相談し、適切な助言や指示を受けている。又24時間電話連絡できる体制をとってもらい必要時は対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族様や主治医との情報交換を行い状況の把握をし早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の利用者様、家族様の意思を確認している。又重度化した際は段階に応じて意思の確認を再度行い、利用者様・家族様の納得のいく方法で最後を迎えられるように主治医や訪問看護師と連携をとりながら支援している。	契約時に入居者、家族に意向を聞き取り、医師、訪問看護師、薬剤師等と連携し、入居者にとって最善の方法で支援している。また、ターミナルの勉強会を実施したり、看取る際に家族が傍で付き添えるように、居室の提供なども行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から指導に来て貰ったり、勉強会を行ったりして、緊急時に備えての訓練を行って動きを確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立ち会いの下消防訓練を行い、1回は地域の消防団や地域住民も交えて行われている。又かわそえネットワークで他事業所との協力体制もとって災害時に備えている。	年2回、昼間と夜間を想定し、消防団や川副ネットワークの事業所等の協力体制のもと、火災訓練が行われている。水害等を想定した訓練は、避難場所の確認はできているが、実施についてはこれからである。	火災以外の避難訓練を実施する等、さらなる災害対策に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員利用者様を人生の先輩として人格を尊重し、プライバシーを損ねない声かけを行うよう日々努めている。	入居者に対して敬意を示し、優しい言葉かけの対応や、プライバシーに配慮した環境設定ができています。個人情報マニュアルに従い、一人ひとりの個人情報の取り扱いにも厳重に注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた雰囲気作りやケアに心掛け、利用者様が意思表示や自己決定しやすいように努めている。意思表示がうまくできない方には、わずかな変化にも気づけるよう観察を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のマニュアルを決めず利用者様の希望やペースを優先し希望に沿った対応ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を家族様に用意して貰い、更衣時にお衣類を利用者様本人に選んで貰ったりし、個人個人の身だしなみやおしゃれができるように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話にて食べたい物を伺い献立に取り入れるようにしている。又準備や片付け等も声をかけ一緒に行う時間をつくるようにしている。	献立は入居者の希望や季節の食材を取り入れ、できる範囲で入居者も一緒に調理や片付けを行っている。行事の時は、家族や地域の方も一緒に食事したり、寿司職人などを招いて料理を作ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの食習慣を考えながら栄養のバランスや体調等を考慮し十分な栄養と水分が摂取出来るよう支援している。又重度化に伴い1人1人の食事形態の工夫や食事介助のペースを合わせ安心して美味しく食べられるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人1人にあった方法(歯ブラシ・クルリーナ・歯間ブラシ・液体歯磨き)で残渣物が口腔内に残らないようにしている。義歯使用者には定期的に義歯洗浄剤を使い清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様1人1人の排泄パターンを把握し、訴え時や時間を見ながら声掛け・誘導し気持ちよく排泄できるよう努めている。	排泄チェック表の活用やサインから、一人ひとりの排泄パターンが把握できている。また、できるだけトイレで排泄できるように声掛けをしている。自立に向けた勉強会を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ココア等の食物繊維の多いものを摂取してもらったり、運動を行い排便を促す働きかけを行っている。又排泄チェック表を使い排便の有無を把握出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制をとっている。拒否されたときは無理強いせず時間をおいたり職員が変わったりして声掛けしタイミングが合った時に入って貰っている。	毎日、入浴の準備はできており、入居者の体調や希望に応じて、時間や順番を決め、対応している。職員間で入浴の声かけやタイミングなど入居者の情報を共有し、楽しんで入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調や生活習慣にあった寝具を準備している。又睡眠・休息は利用者様のペースに合わせ気持ちよく休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師と連携を取り病気や薬について解らないことは質問をし、注意点など把握出来るように努めている。又しっかり服薬できるよう確認し、服薬後の状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を生活の中に取り入れ、施設内レクリエーション等行い持っている力を活用し自信や喜びを感じてもらえる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や体調に応じてドライブや散歩・買い物をしたり季節ごとのイベントにも参加出来るよう努めている。又家族様にも協力して貰い外出等も行っている。	年間の行事計画が作成されており、外出することで四季を楽しむことができる。また、地域の方との触れ合いや、家族との外出を大事にし、希望があれば、個別での外出の対応も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持し自由に買い物ができるように支援する体制ではあるが、現在買い物を希望する方がおられず、又管理ができない方がほとんどである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。又電話の声が聞き取りにくかったり、手紙の文字が書けない場合は代行する等して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の南側の窓からは田畑が広がっている風景を眺められ、季節ごとの作物や収穫風景を見ることができ季節を感じられる。自然の光はブラインドで調整し、室温・湿度にも配慮をしている。	窓が多く、光が差し込むため室内は明るく、リビングからは田園の風景が見える。室内は整理整頓ができており、空気清浄機や加湿器があり、快適な空間になっている。廊下には季節を感じるカレンダーの壁画が写真と共に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の南側の窓からは田畑が広がっている風景を眺められ、季節ごとの作物や収穫風景を見ることができ季節を感じられる。自然の光はブラインドで調整し、室温・湿度にも配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様のなじみのあるタンスや鏡台等を用意してもらうよう家族様に声をかけ、居心地が良く落ち着ける環境作りができるよう努めている。	自宅で使い慣れた物の持ち込みは自由である。家具の配置についても、入居者や家族と相談しながら設置している。壁には家族の写真や趣味の作品等が飾られ、居心地がよい環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やソファー、ベッドなど1人1人の身体機能に応じ対応出来るように工夫している		